



時 栃 報 幼

題字 / 栃木県知事 福田富一氏

第 106 号

平成23年9月20日

(社) 栃木県幼稚園連合会

〒320-0033 宇都宮市本町12-11 栃木会館2階

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人 / 馬場章信 ●発行人 / 石嶋 昇

■栃幼連ホームページ <http://www.youchien.or.jp>



第58回 栃木県幼稚園教育研究大会



平成二十三年七月二十六〜二十七日、栃木県総合文化センターと宇都宮市内各会場において、大会テーマ『幼児教育の成果を示そう』〜人格形成は幼児期の生活とあそびから〜のもと、県内百八十園、千五百五名の参加者を集めて本大会が開催された。

一日目は式典および講演会と実技講習、二日目は十七の分科会に分かれて研究・研修に取り組んだ。

式典

主催者挨拶 (要約)

栃幼連理事長 石嶋 昇

昨年六月からの「幼保一体化」の動きの中、メディアの報道等で大変ご心配をおかけしたと思いますが、七月



までに行われた「子ども子育て新システム検討会議」と、延べ二十九回にわたって行われた三つのワーキングチームの会議を踏まえた中間報告では、全日私幼稚園執行部の働きかけや、出向委員のご努力によって、私たちの主張がかなりの項目で反映されつつあるように伺えます。但し、今の政治は何があってもおかしな状況ですので油断せず注視していく必要があります。

少子化、巨額の財政赤字に震災復興対応が重なり、幼稚園を取り巻く環境は益々厳しい状況が予想されますが、私たちは常に子どもの幸せを第一に、幼児教育の本質を見失うことなく、しなやかな



生きる力を秘めた子の育成に全力を尽くしていかなければなりません。

幼児期の教育の重要性が科学的に証明された今こそ「子どもの最善の利益」と「子どもの基本的人権」の保障が確保されるためにも、私たち幼稚園が、幼児教育を担っているという自負と責任感を持つて頑張りましょう。

表彰

受賞おめでとうございます

● 栃幼連 幼稚園教育功労者表彰

栃幼連教育振興功労者 (敬称略)

井上 智賀 (旭幼)

栃幼連教育研究功労者 (敬称略)

栗子 佳子 (矢場川幼)

● 栃幼連 永年勤続表彰

四十年表彰 四名 三十年表彰 十名

二十年表彰 十五名 十年表彰 四十九名

来賓祝辞

本大会に際し、

栃木県から北山勉 文書字事課長、県議会を代表して岩崎信副議長、開催地宇都宮市から岡本典幸子ども部長、県教育委員会から高山芳樹主幹に、



それぞれ祝辞を頂戴した。また幼児教育センターより大塚千枝子センター長のご臨席を賜った。

講演

「幼稚園で育む絆」

音楽プロデューサー 松居 和氏

はじめに、アメリカの子どもの三人に一人が母子家庭である等の先進国における家庭崩壊の現状を聞き、あとを追っている日本についても衝撃を受けた。

その後、子育てにおける父親の役割や保育者の役割などを、欧米やインドで生活した体験をふまえて、ユーモアあり笑いで楽しく聞かせていただいた。

幼稚園の仕事は、たくさんの人との絆を深めているんだということを再確認でき、快い充実感を覚える内容だった。



セミナー

「うたってあそぼう!」

「実技講習会」

あそび歌作家 鈴木 翼氏

保育士を経てあそび歌作家となった鈴木先生は、幼稚園、保育園、子育て支援センターなどであそび歌ライブを行っている。

今回は、最初から「かみなりどんがやってきた」「もちもちべったん」などすぐに役立つ元気な曲がたくさん披露された。他にもいろいろなアイデア満載のパフォーマンスがあり会場全体が一つになって楽しんだ。



園の課題にもとづく園内研修のあり方 (49名)

助言者 日吉 佳代子(宇都宮共栄大学教授)
コーディネーター 加藤 みどり(真岡さくら幼稚園園長)



参加者の声

自分の園においての園内研修のあり方を改めて考えさせられた。若い先生も意見が言いやすい環境づくりをしていきたい。

3分科会

2~6才の発達、保育のあり方 (103名)

助言者 鈴木 智恵(栃木県幼児教育センター副主幹)
コーディネーター 栗田 英子(黒羽幼稚園園長)



参加者の声

2~6歳の成長について疑問や保育の悩みがあったが、成長の一つの過程として受け止めることができ、保育のあり方を改めて考えなおすことができました。

4分科会

社会性の育ちと子どもの規範意識の芽ばえ (81名)

助言者 横山 洋子(千葉経済大学短期大学部教授)
コーディネーター 葉子 佳子(矢場川幼稚園園長)



参加者の声

- ・まとめの所で助言の横山先生の話をもう少し長く聞きたかった。
- ・問題提起が保育の身近な事でわかりやすかった。

5分科会

幼児理解と保育記録のとり方 (81名)

助言者 加藤 千佐子(作新学院大学女子短期大学部教授)
コーディネーター 大嶋 裕(今市中央幼稚園副園長)



参加者の声

各幼稚園の記録のとり方を知ることができ、とても参考になりました。これからの保育に活かしたいと思います。又、今日の内容を園に帰って皆にも伝え、園全体で活かせるように努めたいと思います。

6分科会

気になる幼児と障がいへの理解 (138名)

助言者 渡辺 千歳(東京未来大学教授)
コーディネーター 斎藤 佳子(しずわでら幼稚園園長)



参加者の声

- ・事前アンケートでの質問など、答えてくれる機会を作ってもらえて良かった。
- ・絵カードなど実際の見本があり、園で実践したいと思った。

7分科会

第58回 2日目 栃木県幼稚園教育研究大会

21世紀を担っていく子どもたちが、瞳きらめく数々の体験を通じて豊かな心を育み、生きる力の基礎を培っていただけるよう、2日目は、17の分科会に分かれて研究・研修にあたった。

各分科会の問題提起者と会場は下記のとおり。

● 保育内容研究部門

分科会	問題提起者	会場
1	赤羽 里恵(高根沢第二幼稚園教諭) 保坂 和枝(かしわ幼稚園教諭)	二荒山会館
2	松島久美子(せいほう幼稚園教諭) 柴 絵美(法得幼稚園教諭)	パルティ
3	高波由美子(高ノ台幼稚園主任) 片桐 紀子(にしだ幼稚園教諭)	コンセーレ
4	東郷 敦子(第二ひかり幼稚園教諭) 高根沢麻衣(なでしこ幼稚園教諭)	二荒山会館
5	鈴木 典子(山辺幼稚園副園長) 武井富有子(足利学園ひかり幼稚園教諭)	二荒山会館
6	土戸 康子(聖アントニオ幼稚園教諭) 福田 優子(清滝幼稚園教諭)	パルティ
7		コンセーレ
8	安藤 紀子(聖母幼稚園教諭)	ホテルニューイタヤ
9	五十嵐市郎(宇都宮市立上河内西小学校教諭) 坂本 美保(下野市教育委員会 主幹指導主事)	県総合文化センター
10	武井 哲子(旗川幼稚園教諭) 金子 美由紀(明星幼稚園教諭)	県総合文化センター
11	栗原 朋子(栗の実幼稚園教諭) 西奈美 佳奈(静林幼稚園教諭)	コンセーレ
12		県総合文化センター

● 講座部門

分科会	会場
13	県総合文化センター
14	ろまんちっく村
15	パルティ

● 免許更新、新採研

分科会	会場
16	作新学院幼稚園
17	栃木県総合教育センター

心の育ちと保育 (82名)

助言者 青柳 宏(宇都宮大学教授)
コーディネーター 小堀 泉(氏家幼稚園園長)



参加者の声

- ・他園の事例が参考になった。
- ・問題意識ごとのグループ分けが良いと思った。

1分科会

協同的な遊びと学び (82名)

助言者 五十嵐 敦子(白鷺大学准教授)
コーディネーター 大中 清見(法得幼稚園園長)



参加者の声

難しいテーマではあったが、たくさんの幼稚園での様子を聞く事ができ、様々な先生の意見を聞く事ができて良かった。

2分科会

「不思議との出会い」～科学する心を育てる～(51名)

助言者 須釜 正栄(有創紀・幼児教室「まんてんキッズ」指導員)
 コーディネーター 岡田 幾子(鹿沼みどり幼稚園教諭)



参加者の声

・改めて科学の楽しさを知ることができ、明日から子どもたちに教えてあげたいな、と感じました。
 ・自分で実際に作って体験して、楽しく学ぶことができました。

13分科会

特別支援教育における保護者とのかかわりと連携(76名)

助言者 久保山 茂樹(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所主任研究員)
 コーディネーター 小野塚 聡(おもちゃのまち幼稚園園長)



参加者の声

・保育者にしかできない支援があるのだと気付いた。
 ・一人一人に合った支援をしていきたいとあらためて思った。

8分科会

幼稚園における自然環境と「自然と親しむ保育」(41名)

助言者 青木 章彦(作新学院大学女子短期大学教授)
 コーディネーター 須田 令子(まこと幼稚園教頭)



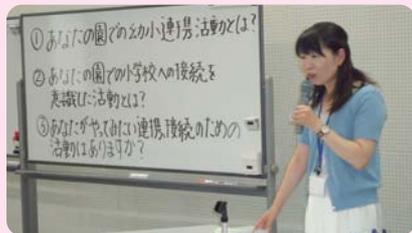
参加者の声

実際に外へ出て体験したり、写真を見たり、とても参考になりました。

14分科会

幼・小連携(77名)

助言者 永井 弘美(矢板市立豊田小学校教頭)
 コーディネーター 小倉 庸寛(愛泉幼稚園副園長)



参加者の声

・幼小連携では解決しない問題が多い中で、もっとこうしたいという方向性が見えてきた。
 ・小学校側、行政側の話が聞けることは勉強になった。

9分科会

健康な心と体を育む～幼児期に相応しい環境～(52名)

助言者 佐々木 俊郎(佐野短期大学教授)
 コーディネーター 石川 健太郎(アルス南幼稚園園長)



参加者の声

・幼児期に運動することの大切さを改めて感じた。
 ・今回の運動遊びを、実際の保育に活かしたいと思う。

15分科会

遊びと生活(豊かな体験を支える幼稚園の遊びと生活)(118名)

助言者 松村 正幸(鶯谷さくら幼稚園園長)
 コーディネーター 高瀬 恵(佐野みのり幼稚園園長)



参加者の声

それぞれで出た意見を松村先生にまとめていただき「遊びと生活」での幼稚園での意義、私たちが気をつけていなくてはならない事を再確認しました。

10分科会

免許状更新講習(68名)

助言者 小林 研介(呑竜幼稚園園長)
 コーディネーター 山荷 フサ子(作新学院幼稚園教頭)



参加者の声

親との思いが違うことは仕方のない事だと勉強したので、これからの保育に少し役立てられそうです。

16分科会

共感しあえる保育者と保護者の関係づくり(94名)

助言者 大塩 宗里(白鷗大学はくおう幼稚園園長)
 コーディネーター 佐藤 麻矢子(野ばら幼稚園副園長)



参加者の声

親との思いが違うことは仕方のない事だと勉強したので、これからの保育に少し役立てられそうです。

11分科会

新規採用幼稚園教諭研修(184名)

①ワークショップ「コミュニケーション能力の向上を目指して」
 指導：栃木県幼児教育センター2名、栃木県総合教育センター生涯学習部4名
 ②幼児理解について
 全体会：高木 恵美(栃木県幼児教育センター 指導主事)
 演習：各地区新採教諭研修指導者

(詳細はP.7)



17分科会

保育理念の可視化(50名)

助言者 藤原 保利(佐野短期大学教授)
 指定討論者 鈴木 奉一(黎明幼稚園園長)
 コーディネーター 井上 智賀(旭幼稚園園長)

参加者の声

問題が単純ではないので、どう評価したらいいのか？ しかし考えを深める良いチャンスとなりました。



12分科会



研修会だより

第一回 保育テクニカル講座

期日 平成二十三年六月九日(木)

会場 コンセール

内容 「体験と環境から生まれる造形遊び」

講師 富士見幼稚園主幹教諭

鮎澤未来氏

参加 百四十六名



講座前半は、富士見幼稚園の保育風景をスライドで見ました。子どもが感動したことを、子どもの感性そのままで表現できるようにするには、どのように教材を提供するか。また、教材によって「できないではなく、どのようにしたらできるか考える」という言葉に、素材研究の大切さを改めて感じた。そして、そのできあがった作品の展示の工夫をすることの大切さを感じた。

後半は、実際に製作をした。数点作ったが、豆絞りの染め方での工コバック作りにおいては、その場ではできあがりからなかつた。しかし、家に帰ってからゆすいで開いた時の感動は、想像していたものとは全く異なる模様になっており、何とも言えないものだった。このような感動を子どもたちにも伝えられるような保育を日々できるように臨んでいきたい。



宇都宮大学教育学部附属幼稚園公開研究会

日時 平成二十三年六月十六日(木)

会場 宇都宮大学附属幼稚園

内容 「仲間の一員としての「私」の在り方(小・中学校へつなげる規範意識)」

参加 百四名



県内外から大勢の参加者が開催された。午前中の実際保育・保育研究では、各クラスで行われた保育の中身について活発な意見交換がされた。



午後の部では、附属幼稚園研究担当教諭からの研究報告後、国立教育政策研究所・生徒指導研究センター・滝充先生の「規範意識・所属感・自己有用感」をテーマに講演が行われた。

特別支援教育研修会

期日 平成二十三年六月十七日(金)

会場 二荒山会館(鶴の間)

内容 「気になる幼児の理解と支援」

講師 横浜市東部地域療育センター 臨床心理士 安倍陽子氏

参加 八十一名



自閉症やアスペルガー症候群等について、具体的な事例説明のほか、プロジェクトを効果的に活用しながらの研修会となった。参加者たちは具体的な研修内容により、実践的に、そして身近な問題であると捉える事ができ、また、子どもたち一人ひとりを理解し、更には長所を発見し認めて伸ばしていく事が大切であると改めて気づかされる研修会となった。



第一回設置者・園長経営研修会

日時 平成二十三年六月二十三日(木)

会場 二荒山会館(松竹梅の間)

研修① 「改正育児・介護休業法について」

講師 栃木労働局雇用均等室 地方育児・介護休業指導官

研修② 「各種助成金」について

講師 栃木高齢・障害者雇用支援センター 高齢者給付金担当相談員

研修③ 「知って得する各種助成金の活用」(65歳までの継続雇用義務化、育児・介護休業法改正の流れの中で)

講師 栃木労務管理事務所 伊藤保和氏

参加 七十四名

今年度の第一回設置者・園長経営研修会は、最新の雇用法改正に関する解説と各種助成金の情報について、資料にそって詳しくご指導いただいた。

来たるべき少子高齢化時代に向けて、雇用問題解決への新たな方向性が示唆される内容であった。



教頭・主任研修講座

期日 平成二十三年七月二日(土)
会場 栃木県総合教育センター
内容 「コミュニケーション能力を高め、より良い人間関係に役立てよう」

講師 栃木県連立台教育会

相談部長 丸山 隆氏

参加 五十一名

メモ

臨床心理士・心理劇の専門家でもある丸山隆先生の講話は、参加者の心理をとらえた興味深いもので、終了時間が早く感じられた。

「目の前にいる人をどう感じるかは、あなたの生活環境から育成されてきた価値観の中で成り立っている。したがって、好ましくない人と感じた時は、あなたの中にそう感じる何かの要因がある、ということになりますね」との切り口から、「無条件の愛」を母からもらったことに気づかされた。

クレーム的保護者への対応や後輩教員からの相談への対応などのロールプレイを通じて、自身の特徴を体験的に知り、また教頭・主任としての役割意識を再認識できた研修であった。



第一回 保育セオリー講座

日時 平成二十三年七月六日(水)
会場 コンセーレ(大ホール)
内容 「身近な自然(生き物) 環境への関わり方・楽しみ方」

講師 宇都宮共和大学
こども生活学部

専任講師 桂木奈巳氏

参加 百四十九名

メモ

①身近な植物・樹木の不思議、②植物や虫と触れ合う、③自然の大切なものという三つの大きなテーマでお話を伺った。また、普段活動されている親子観察会や自然体験イベントのお話を聞き、ネイチャーゲームも行った。あるまじき自然の姿や生き物のつながり、いろいろな発見の中から考える力や忍耐力を身につけることが、何でも与えられる今の時代にこそ必要なものと深く考えさせられた。



栃幼連スクールバス安全運転講習会

日時 平成二十三年七月二十六日(火)
会場 二荒山会館(鶴・亀の間)
内容 「スクールバスの交通安全教育」

講師 宇都宮中央警察署交通総務課
企画係長 森本誠四郎氏

参加 百七十五名

メモ

交通事故防止の心構えを映像を交えて講話していただき、危険を予知することで、事故防止ができる実感した研修となった。

主なポイントは次の通り。
①他のドライバーの運転技術に注意。特に無謀運転に対する危機予知をする。
②バスの送迎時に、親に付いて来ている幼児の安全確認をする。
③危険を想像予知することで、事故を防ぐ(飛び出し等)。
④心身ともに余裕がないと、危険予知能力が低下する(睡眠不足や焦りは禁物)。
⑤想像力は人間しか持っていない。自分の想像力を自分の安全運転に使つとよい。



第二十六回 全日私幼連関東地区教員研修 山梨大会

期日 平成二十三年八月十八・十九日
会場 コラニ文化ホール(甲府市) 他
関東地区教員研修大会が、コラニ文化ホールをメイン会場に約千二百名を超える教員が集まり開催された。

開会式終了後、山梨大学の加藤繁美教授より「希望の保育実践論」と題した基調講演、続いて地元の高校生ジャズバンドによる演奏が行われた。二日目は十五

のフォーラムに分かれ研修が行われ、第五フォーラム「心の育ちと保育」第八フォーラム「特別支援教育における保護者とのかわりと連携」を栃木県の先生方が担当した。厳しい暑さのなか、お骨折りいただいた内部ゲスト、コーディネートーターそして問題提起者の先生方へ敬意を表したい。





**新規採用幼稚園教諭
宿泊研修報告**

新採研宿泊研修実行委員長
金子 礎泰（聖幼稚園 事務長）

平成二十三年年度新規採用幼稚園教諭宿泊研修が、八月三日（水）～五日（金）にかけてとちぎ海浜自然の家において行われました。参加者は百五十八名。

昨年まで実行委員長だった芳賀地区、にのみや幼稚園の上野先生から私になり最初の宿泊研ということもありまして、自分なりのテーマは「皆で楽しむ」「挑戦する」ということを念頭におき、研修ではあります参加者が楽しめる、リラックスできる、励ましあうなどの内容も取り入れながら、タイムスケジュールを作成しました。以下研修のご報告を致します。

最初の活動、グループワークトレーニングでは今年も実行委員、講師の先生方も参加しての活動となりました。例年、次の活動の準備で実行委員、講師の先生方が参加できませんでしたが、内容を変えたので参加でき、初日から、新採の先生との距離が縮まり、良いコミュニケーションの場になりました。二つ活動を行いました。一つはグループに一人、我々が入りグループ内で親近を図ることを目的とし自分の長所を言うての自己紹介。その長所を言いながら名前を呼んであげる。個性的な長所の新採の子もいたので結構楽しめました。もう一つはグループ内でのかわり合いを深めるための、研修に取り組み上でのルール作りをしました。



笑顔でいる、五分前行動、意見は積極的に言うなどのルールが出てきました。また、この活動は体育館で行うのですが、我々、実行委員が先に体育館に行き、新採の先生達を、ハイタッチ、で迎えるというスタイルをとりました。初めて行ったのですが、結構評判良かったです。

続いても全体活動ですが、「印象美人のつくり方」と題して講師に「私ブランド塾S H I N B I」校長の「ちとせ先生」によるセミナーを行いました。このセミナーも例年二日目の午後でしたが、セミナー後は研修に対する姿勢が前とではあきらかに違うのをこころみ、四年みて、それでは一日目にしようと思いましたが、内容は例年と大きく変わっていませんが、あつというまに新採の先生の心を掴んだようです。笑いもあり、またちとせ先生自身が学生の頃「人前では笑えない自分」、「いじめ」にあった話になると本人はもちろん、新採の子も涙していました。ちとせ先生から、人は変わる、笑顔は人を寄せ付けるといメッセージをもらった新採の先生方は考え方が大きく変わった子も多いと思います。



もう一つの全体活動は「クレド作り」です。ちとせ先生とリンクする部分もありますが、自分はどうな幼稚園の先生になりたいか？ その為には何をすべきか？それを達成するために行う行動をカードに書きます。そのカードは常に身近に置いて確認をする。クレドは徐々にレベルアップするものなの



で、自分の成長に合わせて内容も変化していく。短時間での理解は難しいので、スライドを使つての説明、実際に他の企業で使われているクレドを紹介し少しでも理解し、自分の「クレド」を作成しました。選択活動では、五種類の内容から二つ選択しての活動。この活動も例年二日間に分かれていますが、一日の午前と午後に行いました。普段は何人ものこともたちを見ているのでなかなか一つの事に出来ないがこの活動では一つの事に集中している姿が見受けられました。

アンケートの結果でも、「二つの事に集中できなかった所にも気付けた活動になりました。最終日はグループ全員で力を合わせての、手遊びコンクール。保育現場で使えるもの、現実的なものを年齢に応じて作ってもらいました。時間の無い中、各グループで何かテーマを決め様々な手遊びが出てきました。中には、内容をアレンジできる手遊びもあったので、自園でアレンジしたり、レベルアップさせていたきたいと思えます。

結びに、実行委員、講師として参加してくださいました先生方、三日間ありがとうございました。皆様のおかげで今年も素晴らしい研修ができました。また、研修に参加された園の園長先生方、震災後にもかかわらず参加していただきありがとうございます。こういった研修をお手伝いでき我々も自信に繋がると思っています。こういった研修を大事にまた大切にしていきたいと思えます。参加された新採の先生方のこれらの成長を心から願っております。



就職説明会

期日 平成二十三年七月九日（土）
場所 マロニエプラザ大展示場

参加園数 百三十五園
参加者数 四百九十七名

参加者内訳
県内学生 四百十名
県外学生 八十七名

平成二十四年度に幼稚園教諭として就職を志願する学生を対象にした説明会が開催された。

毎年行われ、今年で第十五回となり、学生の中でも恒例の行事と定着されており、幼稚園教諭を強く希望する多くの学生が、開催一時間前から受付前にて開場を待つ長蛇の列を作った。

開場後、それぞれが興味関心のある幼稚園の席へ足を運び、募集状況や園の状況を質問し説明をメモに取る熱い姿が見られた。



今年も、昨年より七十七名多い四百九十七名が説明会に訪れた。



第十七分科会

新規採用幼稚園教諭研修

七月二十七日に栃木県幼稚園教育研究大会分科会として、新規採用幼稚園教諭研修の第二日が行われました。

★ワークショップ 「コミュニケーション能力の 向上を目指して」

午前中は、総合教育センター生涯学習部の職員を講師として、「コミュニケーション能力の向上をテーマとしたワークショップを行いました。

初対面のメンバーを含むグループ編成なので、硬い表情で始まりました。しかし、「あとだしジャンケン」「パスデライオン」等でアイスブレイクするうちに、少しずつ笑顔になり、和やかな雰囲気となりました。ロールプレイ等を通して、子どもや保護者の話に心を寄せて聞くことや、思いを認め、受け止めることの大切さを実感している様子が伺えました。



今回経験したア

クティブティーは、学級懇談会等で活用できます。ぜひ、園内研修等で伝達の時間を設けてください。

★演習「幼児理解」

午後は、「幼児理解」をテーマとしたグループ演習でした。



担当年齢ごとのグループで研修用ビデオを視聴し、一人一人の子ども

の思いや教師の援助の在り方等を話し合いました。「話し合うことで自分が気付かないことを発見でき、保育者としての視野が広がった。」など、協議を通して、自分とは違った子どもの見方や新たな援助の方法を知ることができたり、普段の保育で悩んでいたことの解決策が見つかったりするなど、改めて自分の保育を振り返る場となったようです。

中堅教員のための 組織マネジメント研修

幼児教育センターで実施している法定研修の一つに「幼稚園教職十年

経験者研修」があります。今年度は二十六名の参加で、総合教育センター等で実施する園外研修六日間・園内研修十日間の日程で進んでいます。

八月五日（第三日）に実施される「中堅教員のための組織マネジメント研修」を紹介します。

「組織マネジメント」と言うと堅苦しいイメージがありますが、今年は「もしドラ」の影響で御存知の先生も多いのではないのでしょうか。

講師は、総合教育センター研修部の田代 哲郎 副主幹です。この研修は小・中学校の管理職や中堅教員を対象に実施しているもので、四年前から幼稚園の研修にも取り入れています。

はじめに、キャリア振り返りシートを使い、幼稚園教諭になってから十年間の仕事満足度や支援してくれた人々、仕事や生活の節目などを振り返りました。



さらに幼稚園における組織マネジメントの必要性や幼稚園の内外環境の分析と特色づくり等の演習を行いました。園の要となる先生方なので、自分の園のもつ強みや弱みを明確に分析し、語り合う姿が見られました。

「園に戻って早速、みんなで考えてみたいと思う。」「自分の立場を改めて自覚することができた。」などの感想が寄せられました。限られた時間での演習でしたので、続きはぜひ園内研修で実施してください。

これからの研修

夏休み明けから秋にかけて実施する研修をお知らせします。

●トップセミナー

九月二十八日(水)

説明「『とちぎの幼児教育』について」

今年度より五か年計画で実施している「とちぎ教育振興ビジョン(三期計画)」を受けた本県の幼児教育の方向性や具体的な施策等について説明します。

講話「栃木の子どもの体力の現状と

幼児期の遊び」

情報提供「学校評価について」

●幼稚園・保育所等

パワーアップセミナー

十月十九日(水)

講話「親学習プログラムについて」
演習「体験―親学習プログラム」
演習「地域に開かれた園づくりのアクションプランをつくる」



学事だより

県文書学事課

平成二十三年度幼稚園財務関係調査の実施について

八月から標記調査を対象の幼稚園において実施しています。調査内容は次のとおりです。

- ・ 学校法人の管理運営状況
- ・ 幼稚園の管理運営状況
- ・ 会計処理状況 等

実施日時等の詳細については、調査対象となる幼稚園設置者宛てに通知しています。調査への御協力をお願いします。

なお、今年度、調査対象外の幼稚園においても日常業務の再点検を行い、適正な管理運営に努めていただくようお願いいたします。

また、点検の結果、園則変更、園地・園舎変更、理事・監事就任届等が未提出の場合には、早急に提出されるようお願いいたします。

各種提出書類について

● 幼稚園運営費補助金交付申請書

- ・ 提出期限 十一月上旬
- ・ 平成二十三年度幼稚園運営費補助金（一般補助分）の内定については、十月末頃を予定しています。交付申請書の提出にあたっては、別途通知する内定

通知に基づき提出願います。

● 幼稚園教材費等補助金交付申請書

- ・ 提出期限 十月十七日（月）

● 幼稚園運営費補助金及び幼稚園教材費等補助金（特別補助分）関係書類

一 特別支援教育

- ・ 提出書類
- ア 対象園児就園状況調査書
- イ 対象園児担当、指導教職員に関する調査書
- ウ 対象園児である旨の判定調査書

- ・ 提出期限 十月三十一日（月）

- ※ウについては、身障者手帳、特別児童扶養手当証書、療育手帳、専門医の診断書、児童相談所の判定書のいずれかが必要となります。

また、学級担任以外の教職員から特別な教育支援を受けている幼児が補助対象園児となりますので、ご留意願います。

二 子育てファンド事業

- ・ 提出書類
- ア 子育てランド事業実施計画書
- イ 各事業における保護者等への案内通知（写）

- ・ 提出期限 十一月上旬

三 わんぱく保育推進事業

- ・ 提出書類
- ア わんぱく保育推進事業実施計画書
- イ 預かり保育実施記録
- ウ 保護者等への案内通知（写）

- ・ 提出期限 十一月下旬
- ※各種提出書類の詳細については、別途送付する通知文を参照の上提出願います。

平成二十三年十月、十二月までの事業予定

10月15日	※保育を語る会
10月19日	第18回ピカピカの柘木県 ※パワーアップセミナー
10月26日	第27回 全日私幼連設置者園長全国研修大会（熊本）
10月29日	保育セオリー講座
11月1日	資質向上選抜養成講座Ⅶ ※10年経験者研修
11月3日	とちぎ教育振興大会
11月8日	保育アークニカル講座
11月10日	全日私幼連関東地区代表者協議会柘木
11月18日	第42回 柘木県放送視聴覚教育研究大会 塩谷・南那須大会
11月24日	設置者・園長研修会
12月1日	全日私幼連PTA大会（東京）
12月3日	※保育を語る会
12月16日	保育セオリー講座
12月26日	新規採用幼稚園教諭研修集合研修 ※は幼児教育センター事業

弔事

● 佐野市 明星幼稚園
 理事長・園長 瀧口 玄英 先生
 平成二十三年五月四日 逝去
 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

表彰

● 高齢者叙勲
 瑞宝双光章（教育功労）
 虹ヶ丘幼稚園
 理事長・園長 月江 ハル様

編集後記

一 昨年は新型インフルエンザの大流行、昨年は猛暑が9月中旬頃まで続き、今年は3月の大震災により原発の事故によって、計画停電、放射能の影響も食や住にも大きく影響しています。

原発事故のような人的な被害もあります。しかし近年、地震や津波、自然環境の変化により記録的な大雨による水害、天候など想定外の災害を被る事が多くなってきました。

この自然の猛威に私たち人間はどうにも抗い難い事がありますが、日本人はこれまで様々な災害を受けてきてその後幾度も立ち上ってきました。

今回も震災後の被災地の方々の頑張りや他人を思いやる気持ちなど、海外でも注目されましたが、日本人の良い所、素晴らしさを改めて感じました。

災害を事前に防ぐ対策ももちろん大切ですが、何かあった時に乗り越えられる精神力も大切です。

私も武道（剣道）を長年嗜んでおりますが、日本人の心の中で、祖先から引き継がれてきたものの一つとして、武士道精神の血が流れていることにより、いざというときの「我慢強さ」「礼儀正しさ」もあるのではないのでしょうか。

日本武道の見直しにより、平成二十四年度より中学校の体育の授業で「武道の必修化」が始まります。

武道に限らず、日本人としての教育、生き方、良い所を私たちが子どもたちもしっかり伝え、「日本人の心の文化」を支えて行って欲しいと思います。

（広報委員 関口修司）